

市民1人当たりに使われたお金

68,207円 民生費

高齢者・身体障害者・児童の福祉増進、生活保護などに



36,496円 土木費

道路・公園などの整備管理などに



32,163円 教育費

学校の管理・運営、校舎の維持管理、図書館などの運営に



32,971円 総務費

市役所の管理事務費、市民会館・コミセンの運営費、選挙などに



28,106円 衛生費

ごみの収集処理などに



34,869円 公債費

長期の借入金である市債の返済にあてられます

12,376円 消防費

消防業務、救急業務などに



12,293円 その他

議会費、商工費、農林水産業費、諸支出金など

特別会計

Table for National Health Insurance with columns for income and expenditure.

Table for Elderly Health Care with columns for income and expenditure.

Table for Sewerage with columns for income and expenditure.

Table for Large Temple Property with columns for income and expenditure.

Table for Women's Property with columns for income and expenditure.

水道事業会計

Table for Water Utility with columns for income and expenditure.

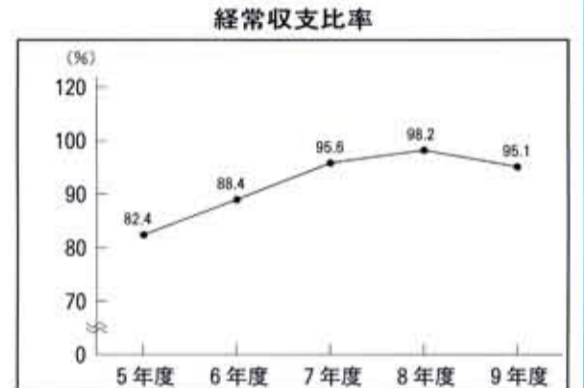
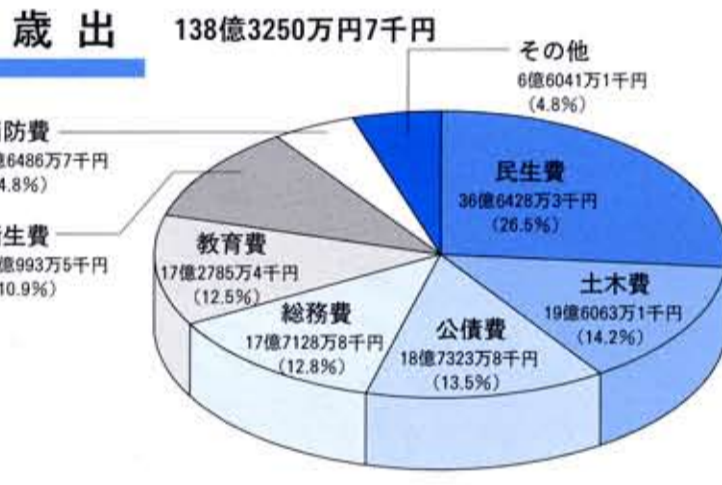
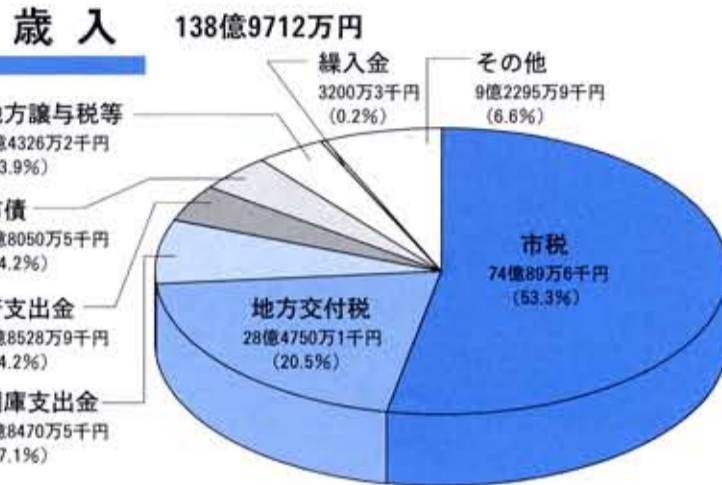
平成9年度決算報告

財政の健全化を推進

平成9年度の決算が、9月定例市議会で承認されました。一般会計の決算は、歳入歳出差引額が、6,461万3千円の赤字となりましたが、財政調整基金(市の貯金)を2,000万円取り崩したことや前年度からの繰越金を差し引くと、実質単年度収支(1年間の純粋な収支)は、前年度に引き続き赤字となりました。

財政健全化のバロメーターでもある経常収支比率(財政構造の弾力性を示す指数)は、行財政改善策を講じたことから、平成8年度より、3.1ポイントマイナスの95.1%(80%を超えると弾力性が失われる)に改善が図れ、財政健全化に向けての足がかりができました。しかし、いまだ高い水準にあり、引き続き財政の健全化に、積極的に取り組んでいかなければなりません。

市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。



※経常収支比率…財政構造の弾力性を判断するための指標として用いられるもので、この比率が高いほど建設事業など臨時の行政需要に充当できる財源が少ないことを表しています。都市においては、これが80%を超えるとその財政構造は弾力性を失いつつあるといわれています。

※財政調整基金…年度間の財政の不均衡を調整するための基金で、長期的視野に立った計画的な財政運営を行うために、財源に余裕のある年度に積立を行い、財源不足が生じる年度に活用するためのものです。また、各年度において決算上剰余金を生じたときには、その全部または一部を積み立てることとなっています。

歳入 市債厳選し 発行を抑制し 決算額は、138億9712万円、前年度に比べ14億7561万円、9.6%の減となりました。市税では、決算額が74億89万6千円、前年度より3.1ポイントマイナスの95.1%に改善が図れ、財政健全化に向けての足がかりができました。しかし、いまだ高い水準にあり、引き続き財政の健全化に、積極的に取り組んでいかなければなりません。

歳出 行財政改善を徹底 決算額は、138億3250万7千円、前年度に比べ6億6041万1千円、4.8%の減となりました。民生費は、36億6428万3千円、前年度より1.2ポイントマイナスの95.1%に改善が図れ、財政健全化に向けての足がかりができました。しかし、いまだ高い水準にあり、引き続き財政の健全化に、積極的に取り組んでいかなければなりません。

講じたことにより、財政調整基金からの繰入を2000万円に止めることができたためです。なお、財政調整基金の平成9年度末現在高は、前年度と比較して1476万1千円減の、9億1660万9千円となりました。さらに、市債については、公債費対策として、市債の厳選や、発行抑制に努めたことにより5億8050万5千円減で、8億9559万5千円、60.7%の減となりました。なお、市債の現在高は、9年度末、前年度より5億7032万円減となったものの、152億2424万3千円となっています。